

かわいいコウモリを観察しました。

－ふるさと講座・自然系・第2回目－

7月22日（火）に道指定有形文化財「奥行臼駅通」で「コウモリ観察会」を実施しました。講師は道東のコウモリの調査研究をしている根室市歴史と自然の資料館の近藤憲久さんです。

コウモリの生態についてのお話のあと、夜になると餌を求めて飛び立つコウモリを捕獲するために駅通の裏にかすみ網を設置しました。捕獲されたコウモリは、ホオヒゲコウモリとこの観察会ではじめてウサギコウモリを捕獲することが出来ました。

駅通内で計測やリングを取りつける作業を行いながら、じっくりとコウモリを観察しました。写真撮影をしたり、翼にさわるなど、普段なかなか見ることの出来ないコウモリに釘付けでした。

コウモリは、世界で970種・日本で35種・北海道で19種・別海町で9種確認されています。1頭あたり蚊ぐらいの大きさの昆虫を1日500匹ぐらい食べる大食いの哺乳類です。



かすみ網の前でコウモリを待ちます。



ウサギのような耳を持つウサギコウモリ



コウモリに釘付けです。

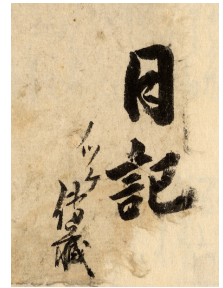


写真もたくさん撮られました。

史料「日記 ノツケ 伝蔵」

～根室場所のアイヌを天然痘から救った貴重な記録からⅧ～

※今月紹介するものは、No. 108 2008 年 7 月号の続きとなります。



二十八日 アツウシヘツを出て、ホロモシリに着く。

昼飯をトーバイの木伐小屋で差し上げる。居合わせた二人のアイヌに井上様の話を致したところ、すぐに承知し、接種しました。二人に夜食を差し上げ、清酒五合ずつ下されたと聞いております。

また、種痘の件を仰せ付けられましたが、御会所からの手紙には、「ホロモシリ・ハナサキ（色丹島からハナサキに移住させられたアイヌは、その後、ホニライに移されたので、この呼び方もあった）子モロのアイヌたちはどのようなことがあっても、種痘に同意をしない。」と言ってきましたので、取次ませんでした。

二十九日 佐伯様（同心）と源之助がホロモシリへ参り、アイヌたちへ説得しましたが、承知せず、佐伯様のお言葉を二、三度通訳しましたが同意されず、そのままにいたして置きました。

同 三十日 ハナサキアイヌへも前と同じく説得しましたが同意を得ませんでした。

今日、子モロに着きました。年取・豆蔲の儀式がありました。

（ハナサキアイヌとは、文化 5 年の頃に、色丹島に住んでいたアイヌの人たちを 移住させて、ハナサキに住ませた。しかし、津波に襲われ、家屋が流出したので、更に、ホニライに移住させた。当時の人数は「ハナサキ家数 9 軒人別 48 人」（安政 3 年）また、明治 17 年になり、千島列島の最北端の「占守島」に住んでいた「占守土人」（原文のまま）20 戸、97 人、牛 4 頭、子牛 1 頭でした。

この方々の子孫にあたる人々は、現在は根室地方や北海道に居住しています。

（文責 調査員 戸田 峯雄）

アナログな音を聞きにきませんか？

ポータブル蓄音機

7 月中に町内外の小中学生の団体見学がありました。一通り見学を終えた後に、最近では蓄音機の音を聞いてもらいます。1980 年代ぐらいまでは、レコードが主流でしたが、今では、なかなか耳にすることもあります。ましてや今の小中学生であれば、初めて聞く音かと思います。レトロなアナログの音には、なつかしく、そしてあたたかい印象を受けるようです。ご来館のみなさんにもご希望があれば、お聞かせします。



別海町郷土資料館だより No.109

発行日 平成 20 年 8 月 1 日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

コウモリ観察会にはたくさんの参加者がありました。子ども、大人問わず見たことのないものには、興味津々で、とても楽しい観察会になりました。今の時代インターネットで何でも見れますが、生で見る事の大切さを伝えればと思います。実物に勝るものはない。（石渡）